

ソフトウェアテストシンポジウム 2010 関西

# シンポジウム主旨説明

～ JaSST 2010 Kansaiの歩き方

JaSST'10 Kansai 実行委員一同

共同実行委員長 森崎 修司  
(国立大学法人奈良先端科学技術大学院大学)



## テーマ: 負けないテスト

- ・ テストは様々な制約を受ける。
- ・ テストでは不測の事態が起こる。
- ・ 負けない  
＝「制約や不測の事態にも柔軟に対応できる」

計画時には予想もしていなかった不測の事態  
(微妙に予想できていたが怖くて計画書には書けない事態)

- ・ 一部モジュールが未完成
- ・ 仕様変更
- ・ 実機の納品がテスト後半になる

# 負けそうなテスト

- ・ 一部モジュールが未完成  
→ 未完成部分がなくても実施できるテスト項目が不明
- ・ 仕様変更  
→ 仕様変更部分ばかりをテストしていた..
- ・ 実機の納品がテスト後半になる  
→ エミュレータ上でも実施可能なテスト項目が不明

# 負けないテスト

- ・ 一部モジュールが未完成  
→ 過去の実績や難易度から先に完成しそうなモジュールを推測、その部分から先に済ませる。
- ・ 仕様変更  
→ 仕様変更の可能性の低い部分からテスト開始。仕様変更は織込み済み。
- ・ 実機の納品がテスト後半になる  
→ 実機での実施が必須のテスト項目とそうでないテスト項目が切り分けられている。

## 「負けないテスト」を支えるもの

- ・ テスト分析、計画フェーズでの多面的な検討
- ・ 様々な観点で分類されたテスト項目
- ・ 計画書は1シナリオ、同時に複数シナリオが検討されている。

# 本シンポジウムの構成

- ・ 招待講演セッション
- ・ 奈良高専セッション
- ・ ランチセッション
- ・ ワークショップ ～ 負けないテスト戦略
- ・ テクニカルセッション
- ・ 振り返りセッション

## 制約と解決策の対

- ・ 全てのセッションを「制約・リスク」とその「解決策」という視点で聴講ください。
- ・ どのような制約・リスクの下でその解決策は有効でしょうか、お考えください。
- ・ ご自身の組織やプロジェクトにも、その制約・リスクがありますか？

技法、プロセス、アプローチを「コンテキスト(文脈/制約)」と「効果」の対にして考える  
エンピリカルソフトウェア工学の考えをベースにしている。

# 本シンポジウムの構成（午前 + ランチ）

- ・ 招待講演セッション

- 「レビューとテストの効果を予測するための取組み」  
板橋氏(パナソニック)
- 「オフショアにおける受入検査の考慮点」  
茨木氏(オージス総研)
- 「ユーザ視点からの提言」  
久々宮氏(塚谷刃物製作所)

- ・ 奈良高専セッション

- 「元気なら組込みシステム技術者の養成」土井先生

- ・ ランチセッション

- 「品質に”効く”～ Visual Studioの最新情報」  
長沢氏(マイクロソフト)

## 本シンポジウムの構成(午後)

- ・ チュートリアル
- ・ ワークショップ
  - リスクや制約を勘案しテスト分析/計画をします。
  - 不測の事態に対して、テスト計画を臨機応変に変更します。
- ・ テクニカルセッション
  - 「ベンチマーキングによる生産性・品質の向上」  
粕渕氏(大日本スクリーン製造)
  - 「品質保証駆動ソフトウェア開発」  
小枝氏(シスメックス)
  - 「限られた期間をトラブルから守るためのリスク管理」  
平野氏(組込みソフトウェア管理者・技術者育成研究会)
- ・ 振り返りセッション